

2003 . 10

# 白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ  
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>  
白石区民公式サイト「shiroishi.org」  
<http://www.shiroishi.org/>

郵便はがきに、野菜、果物、花など、身近なものを題材に墨で描き、絵の具で色を付け、簡単なメッセージを添える絵手紙。下書きをせずに、自分の目で見えたものを、感じたまま自由に描くのが基本だ。

今から十三年前、知人からもらった絵手紙に感動し、その世界に足を踏み入れた千田さん。郵便局の絵手紙講座に半年間通い、その後は、独学で絵手紙を描き続けてきた。

当時の講座仲間とは、今も絵手紙のやり取りが続いており、落ち込んでいるときにもらうと元気がわいてくるといふ。

千田さんは、「絵手紙は言葉では伝えにくいことも、線の大きさや色使い、描くもの大

きさなどに自然と表れるのが魅力。だから絵手紙を見て相手のことを想像したり、自分の絵手紙を見た相手が「ここにく」するって考えると楽しくて」と、夢中になる理由を話す。またその効用についても、「気軽に自己表現できるから、人と人とのコミュニケーションの手段やストレス発散にも効果的。送る側も送られる側も、共に元気になる」と説明する。

平成十一年、地域の喫茶店を会場に初めて絵手紙教室を開き、現在は、区民講座をはじめ、区内のサークルや事業所、市内数カ所の老人保健施設など、さまざまな場所で活動している。講座では、「下



今月の

人

絵手紙講師

千田 孝子さん (六三)

(本郷通在住)

多くの人に絵手紙の力で元気になってほしい。少しでもそのお手伝いができたらいいな。

手で恥ずかしい」という参加者に対し、「絵手紙は心で描くもの。うまいも下手もないんですよ」と、丁寧に何度も訴える。講座が終わるころ、初めは不安げだった参加者の顔が晴れ晴れとした笑顔に変わる。「道具はどこで買えるのか」「家でも描いてみるよ」と、意欲的に声を掛けてくれる。そんな姿が何よりうれし

いと微笑む。

「絵手紙は枠にはまるものじゃない。自分が楽しめる描き方でよいはず」と、あえて誰の門下生にもならず、団体にも所属せずに、自己流のまま描き続けている千田さん。穏やかで物静かな口調の中に、彼女の意思の強さを感じた。

編集 白石区役所総務企画課広聴係  
☎003-8612  
札幌市白石区本郷通3丁目北1-1  
☎861-2400 内線224  
FAX860-5236